

# はるかな尾瀬

## — 目 次 —

- 02 特集 尾瀬の森をどう見るか
- 04 現地情報 尾瀬山の鼻ビジターセンター編  
ビジターセンターへ、ようこそ  
原をわたる風だより
- 06 現地情報 尾瀬沼ビジターセンター編  
ビジターセンターへ、ようこそ  
おこじょだより
- 08 令和3年シーズンについて ～コロナに負けない2～
- 09 尾瀬ボランティア情報
- 10 尾瀬保護財団からのお知らせ



2021.7 vol.46  
(公財)尾瀬保護財団



大江湿原の静かな朝 撮影日：令和3年6月28日



# 《特集》

## 尾瀬の森をどう見るか 〈原生の森と仕立てられた森〉

はじめに

「里山」という言葉に出会ってから何年経っただろうか。

春になればスミシヤシユンランが咲き、夏になれば蝉時雨の森に遊び、秋には夢中になって山栗を集めた。里山での生活は、子供たちにとって、ちよつとした宝探しのようでもあった。私自身、どつぷりと里山に浸かって過ごした子供時代だった。

そんな子供たちがいつしか成人し、「何かが違う」と感じ始める。仕事や育児に追われた生活から、野山を見渡す視野が狭くなり里の小川からゲンジボタルが姿を消したことをさえ気付かない。荒廃してゆく里山を目の当たりにして、為す術もないまま誰かがポツリポツリとつぶやく「見慣れた生き物たちはいったい何処へ」と。そんな頃、各地の市民団体がポランディアと称して「森づくり」という活動を展開し始める、それは偶然の一致なのだろうか。

「ゴールデンウィークのレジャー情報」が新聞やテレビで報じられる頃、アウトドア雑誌の見開きの頁を純白のミスバショウやオレンジ色のニッコウキスゲが華やかに飾る。花の不作、豊作はあっても、都会の人たちからみればやはりそこは憧憬の念である花園。シーズンともなれば週末の尾瀬ヶ原や尾瀬沼周辺の木道は長蛇の列だ。

ところで、尾瀬の自然は原生自然といわれているが、尾瀬ヶ原ひとつを見て、それは悠久6千年の歴史が育んできたひとつの作品ともいえる。尾瀬に来たなら湿原を見渡そう、森の木々を見つめてみよう、動物たちの息遣いを感じてみよう。でも、せつかくの尾瀬、ミスバショウやニッコウキスゲだけの満足で終わらせてしまつのはちよつと残念ではないだろうか。

この度の機会、普段あまり語られることのない「尾瀬の森」についてこれまで関わ



整備の進む里山

ってきた里山での「森づくり」と併記し私見を記してみたい。拙文にも関わらず、少しでも頷いていただけの一節があったなら嬉しい限りであるが、目に余る独断と偏見が目につくとするならば、筆者の未熟さ故にご容赦いただきたい。

### 1. 原生の森と仕立てられた里山

森林は日本の国土の約7割を占めるといふ。どこにそんなに森があるの?」と言いたくなるが、大都会の真っ只中は別として、自分たちの生活圏をぐるっと見渡せば、大概、小さな森や林が目に入るのはないだろうか。少しかしこまった書き方をすれば、森林植生は垂直分布と水平分布に分けることができる。尾瀬の森は、尾瀬ヶ原で標高1400m付近に、尾瀬沼周辺にあつては標高1660mほどの位置に森が広がっているため、垂直分布では山地帯から亜高山帯に、また、水平分布では冷温帯から亜寒帯のエリアに森が広がっている。自生している樹木は落葉広葉樹でブナやミズナラ、タケカンバ、針葉樹ではオオシラビソやコマツガ、トウヒなどが優占種となっている。尾瀬沼を周囲すると、針葉樹を中心とした若い森と、落葉広葉樹を中心とした明るい森、さらには濃淡な緑のグラデーシオンが美しい針広混交林というように、それぞれの森の魅力を楽しめる。

一方、里山の垂直分布は低山帯、丘陵帯に位置し、水平分布では暖温帯になる。自生する樹種は落葉広葉樹のクヌギ、コナラといった新成林を中心に、常緑のシイ、カシ類が混交する森になる。原生の森、手付かずの森と呼ばれる尾瀬の森に対して、里山は原生自然を壊して再生させた二次的な森、言い換えれば目的に沿って仕立てられた森なのである。



針広混交林

## II. 木を見て森を見ず

「環境問題とは何か」の著者である富山和子氏は、その著書の中でこう記している。「日本の国土に原生林があるだろうか、旧石器時代からこの国土に人が住んでいる。自由自在に野山を駆け巡り、道具や火も使っている。人間の影響を受けぬ森林のあるところはない」と。さらに、知床の森も、白神の森も、そして屋久島の森も決して原生林ではないと。

そこで、思いつのである。尾瀬の森はどつたるつか。尾瀬という地名がはじめて書物に紹介されたのは、寛文6年（1666年）、会津風土記の中にその一遍が記されている。さらに慶応4年（1868年）、戊辰の役では多くの会津藩士が槍枝岐から尾瀬を越えて戸倉に入っている。その際には、縦横無尽に湿原を駆け抜け、深い森でさえ多くの人々が分け入ったことだろう。明治時代ともなれば、長蔵小屋の建立者、平野長蔵氏が燧ヶ岳に登り、さらに、多くの植物学者や画家たちによって尾瀬の素晴らしさが紹介されている。

尾瀬の森は今でもそ手付かずとされているが、時代の変遷とともに様々な人々が関わった末に現在の尾瀬の姿がある、という認識も必要ではないだろうか。一ノ瀬から十二曲がり間や、燧裏林道のブナの大木には鋭目が刻まれ、いにしへの尾瀬の森は植人たちの往来があったことを物語っている。富山和子氏は前述した著書の中で「大昔から日本の山々は山の民たちの活気にあふれた世界であり、秋田のマガギにとつて、

上信越の山々は狩猟の領域であったばかりか、里へ下りることなく秋田から紀州の山中までを繋ぐ自己の道を持っていた」と、想いを巡らす一節を記している。

### ブナ

木を見て森を見ず。凜と立つブナやダケカンバ、オオシラビンに畏敬の念を抱くのも尾瀬の森の見方だが、鬱蒼と茂る若い針葉樹の森や、新緑、紅葉に魅了される落葉広葉樹の森を相観として見渡して欲しい。改めて造形美としての森の姿に感動するはずだ。身近な里山にしても然り。立ち枯れ始めた木々に着目し、森の荒廃を論ずることも結構だが、その原因となる林相、つまり現状の森をひとつの姿とし



て見渡すことも肝要なのである。尾瀬の森はすでに遷移の最終段階、極相の域に達しているが、里山はまだまた遷移の途上にある森なのである。

## III. 尾瀬の森をどつ見るか

江間章子作詞による「夏の思い出」がNHKラジオで放送されたのが昭和24年のこと。それから4年後には尾瀬ヶ原が自然公園法によって特別保護地区に指定され、空前の尾瀬ブームがやって来た。年間数十万人の人たちが尾瀬ヶ原や尾瀬沼に足を運び、まだほとんど木道整備がされていなかった湿原はあつという間に裸地化、乾燥化が進み、天上の楽園と称せられたアヤメ平は惨憺たる姿となってしまった。その頃、尾瀬ヶ原や尾瀬沼を取り囲んでいた森はどんな姿だったのだろうか。現状から想像するに、幹回り数メートル近いブナやミズナラ、オオシラビンやトウヒの大木が人知れず林立していたに違いない。多くの人々が湿原の植物や池塘の風景に目を奪われている一方、尾瀬の深い森は、豊かな土壌に根付く水源涵養保安林として雪解け水や雨水を浸透させながら巨大な水がめとなるべく公益的機能を果たしているのだ。湿原のベンチに腰を下ろして遠くを見つめたとき、そんなことを思いながら尾瀬の森を眺めてほしい。

手つかずの自然の姿が良しか否かという事よりも、「尾瀬」という貴重な財産を損なうことなく、いかに後世に伝えることができるか、それは未来への贈り物でもある。私がこれまで携わってきた里山での森作りも同じテーマを掲げている。そして、思っているのである。尾瀬の森も里山も同じ価値を有する共通の財産なんだと。



尾瀬沼周辺の森

### 参考文献

- ・永遠の尾瀬 菊地慶四郎・須藤志成著 1997年10月（株）上毛新聞社
- ・環境問題とは何か 富山和子著 2001年10月 PHP研究所
- ・尾瀬国立公園管理計画書 環境省関東地方環境事務所 2013年8月

（尾瀬沼ビジターセンター 令和元年度管理員 松田 幸弘）



# 尾瀬山の鼻ビジターセンター ビジターセンターへ、ようこそ!



昨年に引き続き2021年の春も新型コロナウイルス感染拡大の影響を受ける事となりました。

ゴールデンウィーク明けの5月上旬に山の鼻ビジターセンター開所のため山の鼻・尾瀬沼スタッフ合わせて14名で上山し、見晴沼尻川橋の橋板設置作業や山の鼻ビジターセンターの展示設営など5月12日の開所に向けて総動員で準備を進め、縮小した規模ながら無事、開所式を開催する事ができました。(写真1)



写真1

しかし、非情にも新型コロナウイルスの感染拡大は進み、群馬県独自の警戒度が最高レベルの4に達し、「まん延防止等重点措置区域」にも群馬県内の一部区域が指定されるなどの状況から、開所式の4日後にはビジターセンターの展示室・レクチャールームは一時閉鎖の措置をとり、入山者に見ていただくよう準備した展示も、その間は光の当たらない部屋で静かに時を過ごすことになってしまいました。(写真2)



写真2

尾瀬ヶ原に目を向けると、ミズバショウは例年通り白く可憐な姿を見せてくれました。早い時期に芽を出したミズバショウは遅霜の影響で白い仏炎苞が茶色くなってしまいましたが、5月下旬くらいになると次々と芽を出し、白く見事な群落を作ってくれました。ワタスゲの花も多かったです。6月下旬の果穂をつける時期が楽しみです。

展示については、昨年の情報提供をメインとした構成を踏襲する形となり、残念ながら、動物のふれあいコーナーや記念スタンプコーナーなど、手の触れる展示は現時点ではすべて休止しておりますが、見て楽しんでいただけるような展示を目指していますので、ぜひお立ち寄りください。(写真3)



写真3

6月中旬に群馬県の警戒度が3に下がったため、展示室・レクチャールームを開放し、夜のスライド上映会や朝の観察会など、みなさまが気軽にご参加いただけるイベントを再開しました。今後も新型コロナウイルスの状況を鑑みての運営となりますが、当ビジターセンターでもできる限りの感染防止対策を講じ、皆様により深く尾瀬をご理解いただけるよう尽くしてまいります。



# 原をわたる風だより



2021上山

山の鼻ビジターセンター所長の西澤です。

今年も新型コロナウイルスの影響で、開所した直後に閉所となってしまい、残念な開幕となってしまいました。真つ白なミズバショウの群落に癒されました。スタッフ一同、コロナ対策については万全を期して勤務しております。ご来場いただく皆さまにもご協力をいただき、尾瀬を安心して楽しんでいただければ幸いです。(西澤 政春)

## 尾瀬の振り返り

年齢は古希、尾瀬での仕事は半世紀を過ぎました。昭和45年から長い尾瀬との関わりとなりました。たった50年程ですが大きな変化が見られます。たとえば昭和40年〜60年代の入山者は今とは比較にならない程多く、ミズバショウ・ニッコウキスゲ・紅葉期の各シーズンで週末の山小屋は予約で超満員でした。(今は定員予約制、個室対応等)

自然保護ですと、当時の木道材は現地調達で、広葉樹を切り出し割って敷設されてきました。(40年代前半、その後ヘリコプター導入によりカラマツ材を搬入敷設)

植物の風景ですと、夏のニッコウキスゲの尾瀬ヶ原はジュウタンを敷いたように、黄色く群落で咲きました。(現在はシカの捕食被害で植減少、ミツガシラ等も) 気象関係ですと、平成半ば以前は現在とは比べようにならない程、豪雪で冬季屋根の除雪に入りましたが、大変な作

業でした。(現在の降雪は極少なく、屋根が露出している事がここ数年見られず、温暖化?)

ハイカーの皆さん安全に尾瀬の自然を楽しんで下さい。(笹原 宗利)

## 山の鼻VC業務3年目

山の鼻ビジターセンター3年目の坂上です。

今年も昨年同様に新型コロナウイルスが世界的に流行しており、尾瀬の中での感染が起きぬ様細心の注意をしながらの業務となりました。5月の半ばに開所はしましたが、すぐに群馬県がまん延防止等重点措置の対象地域となった為、閉館となってしまいました。

現地点では思うように行っていないのが現状ですが、今年もまだ始まったばかり。尾瀬内の情報発信、木道などの環境整備や傷病者対応、クマの追い払いに遭難防止の為の登山装備の啓発などなど尾瀬の為に私の出来る事を精一杯務めて参る所存でございます。今年もどうか宜しくお願いいたします。(坂上 修司)

## 2年目の尾瀬

今年も予定通り研修を終え、上山することが出来ましたが、5月12日にビジターセンターの開所式をしてからわずか4日後、16日には新型コロナウイルス感染症拡大防止のために閉館となってしまいました。それでも、コロナウイルスに関係なく、時は流れています。湿原の色は、雪の白から雪解けの茶色へと変わり、今は少しずつ緑へと変化しています。ミズ

バショウは、今年もたくさん顔を出してくれました。昨年咲いていた植物たちに今年も会えることを期待し、昨年会えなかった植物や動物には、今年はずっとも会いたいと思っております。いろいろ制限される生活となっておりますが、皆さんに尾瀬に来ていただき、マスクを外して思う存分新鮮な空気を吸い込んで、自然の織り成す景観を味わっていただきたいと思っております。

## 知れば知るほど尾瀬って

尾瀬山の鼻ビジターセンター初勤務の新保正利です。第2の人生のライフワークに「尾瀬」での仕事を運びました。山行が趣味で、通年この尾瀬にも10回程度は通っておりますが、24時間を継続して過ごすことで、新たな「尾瀬」を知ることができ、毎日新鮮な気持ちで勤務しています。「尾瀬」の自然を感じ「尾瀬」を知るには、いま「尾瀬」にいるからこそ出来ることだと感じております。

この地を守り抜いてきた人・企業・組織等の歴史や、これからの世代に伝えるべき未来。半年間のシーズン勤務。とことん「尾瀬」と向かい合い、微力ながら「尾瀬」の守り人となった誇りが財産となるよう、楽しみたいと思っております。

コロナ禍で人との接触に注意を払いながらも、良きスタッフに恵まれ最終日まで頑張れそうです。どうぞよろしくお願いいたします。



5月26日 見本園 ミズバショウ

(新保 正利)

## はるかな尾瀬で、働き、暮らす

山の鼻ビジターセンターに、今年からお世話になる新井です。

群馬県内に住み、山歩きが好きな私にとって、尾瀬はこれまでにも何度も訪れた場所でした。ただ、何度来ても、尾瀬の広くて豊かな自然を、なかなか味わい尽くせないという思いが残りました。今回、ビジターセンターで働く機会をいただいただけ、大変感謝しています。ここで働きながら、尾瀬の自然をしっかりと見つけたいと思います。1年の半分が雪に閉ざされ、残りの半年で、春、夏、秋が駆け抜けてゆく尾瀬。その変化の速さにも追いつけなさそうなのもかたしさを感じつつも、精一杯追いついていきたいと思うこの頃です。(新井 英樹)

## 歩くたび、新しい。

入山からもうじきひと月、雪解けを心待ちにしていた命の息吹が日増しに大きくなっています。植物・生き物のみならず、雄大な山や広がる湿原・池塘などここには感性を刺激するものが詰まっています。いつも目が離せません。

歩くたび新しく咲き始めた花があり、以前とは姿が変化したものがあり、枯れていくものがある。そのどれもが尊く、愛しく尾瀬を歩いている時間は、まるで寡黙な友人たちを訪ねているかのような安らかな気持ちになります。

刻一刻と移り変わり、唯一無二の美しさを持つ尾瀬の表情ひとつひとつをなるべく多く見つけていけるよう、五感を研ぎ澄ませこの地を愛していきたいと思っております。(佐久間麻由)



## 現地 情報

# 尾瀬沼ビジターセンター ビジターセンターへ、ようこそ!



尾瀬沼の東岸にあります「尾瀬沼ビジターセンター」は、昭和59年に環境省によって旧会津沼田街道沿いに設置されました。豊かな水をたたえる尾瀬沼と東北以北最高峰の燧ヶ岳。ニッコウキスゲの美しさで知られる大江湿原。変化に富んだ美しい自然に四方を囲まれたビジターセンターです。



尾瀬沼ビジターセンターが位置する尾瀬沼東岸は燧ヶ岳の代表的な登山道である長英新道の起点に近く、大江湿原の四季折々の花の散策の起点としても最高です。



関東からおいでの方は群馬県の大清水登山口から徒歩約2時間半。沼山峠登山口を目指すなら、東武鉄道を利用してバスに乗り継いで沼山峠に向かうか、車で鬼怒川温泉や那須塩原温泉を経由して御池に向かい、御池でシャトルバスに乗り換えて沼山峠に行くことができます。

その沼山峠から約1時間歩くとビジターセンターに到着します。



燧ヶ岳と尾瀬沼

さらに足を伸ばすと高山植物で有名な会津駒ヶ岳や田代山を巡ることも可能です。

さて、利用者の皆様にこれらの自然をより深く知ってもらうため、尾瀬沼ビジターセンターではシーズン（5月中旬から10月末）を通して様々なイベントや企画展示を実施しております。尾瀬の自然を解説するミニツアーも毎日2回実施しています。

その他、土日祝日の前夜19時からスライドショーを楽しんでいただいています。

スライドショーでは、尾瀬国立公園にある山々の特徴や、尾瀬ヶ原や尾瀬沼周辺になぜ湿原が多く出来たのかを説明したり、半年を雪に覆われる中で可憐な花を咲かせる植物の秘密を説明したり、尾瀬に住む動物の紹介をしています。さらに、尾瀬の見所や、自然保護の取り



組みについての説明を入れて、尾瀬に来ていただいた皆様にもっと深く尾瀬を知っていただくようにしています。

スライドショーを実施した日の翌朝7時30分には「朝イチ観察会」と名付けた自然観察会もおこなっています。

尾瀬沼においての際は、これらのイベントにもぜひご参加下さい。

今年7月には新尾瀬沼ビジターセンターが開館します。周辺の登山道を紹介する案内板も新しく見やすい展示になりました。尾瀬沼ビジターセンター周辺の四季折々の花や野鳥、哺乳類などの展示パネルも新しく見やすくなりました。周辺の散策で知らなかった花や動物などに会って、名前や特徴などを知りたいときに、きっとお役に立てると思います。



新尾瀬沼ビジターセンターの展示

尾瀬の地形や歴史、その成り立ちなど様々な角度から知ることができ、尾瀬についてより深い興味と関心を広げていけるものと思います。



7月はニッコウキスゲの季節です。ニッコウキスゲの花を鑑賞することを目的に、ついでに新尾瀬沼ビジターセンターを訪れるということでも大歓迎です。

コロナウイルスの感染拡大を予防するため、実際に手に触れるような展示やイベントは休止させていただいているため、寂しさを感じる部分もあるかもしれませんが、それを超える豊かな自然が皆様をお待ちしています。

尾瀬を訪れる際には、事前準備の一つとしてぜひ尾瀬保護財団ホームページ、Instagramや尾瀬沼ビジターセンターのFacebook、twitterをご覧ください。

その日に行われたイベントや咲き始めた花、魅力的な風景写真などの最新の情報をその日のうちにお届けしています。

そして、写真や文章では満足できなかった時はぜひ実際に尾瀬まで足を運んでいただき、全身で尾瀬を感じ取っていただきたいと願っています。皆様とお会いできる日を楽しみにしております。



ミニツアーの様子



# おごじよだより

## 2021年の期待と不安

阪路です。今年もビクターセンターで働かせていただきます。

禍も2年目に入ってしまった。

目に見えない新型コロナウイルスにどう対応してよいか悩むところがありませんが、できるだけ感染対策をとっています。工事中の新尾瀬沼ビクターセンターもやっと完成して、7月からは新尾瀬沼ビクターセンターでの業務となり、今の気持ちは期待と不安が入り交じっているところ。



コロナ禍で制限もありますが、新尾瀬沼ビクターセンターでもお客様に喜んでいただけるように、いろいろないベントを考えていきたいと思えます。皆様のお越しをお待ち申し上げます。  
(阪路 善彦)

## 百聞は一見に如かず

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため外出を控えたのでしうか、尾瀬沼を訪れる人は少なかったです。この感染症は簡単には終息しないようなので、今年も訪れる人は少ないのかなと心配しているところです。雑誌やテレビで楽しむこともできますが、諺に「百聞は一見に如かず」とあります。やはり自分の目で、足で、尾瀬の魅力を発見してほしいのです。人の手がほとんど加わっていない貴重な自然環境とそこに生きる動植物、そ

れが尾瀬の魅力です。尾瀬沼を訪れた皆さんのために尾瀬の魅力探しのお手伝いをしたいと思えます。  
(渡邊 寿敏)

## 9年目の尾瀬―初心忘るべからず―

気がつけば9年目。20代の大半を尾瀬で過ごした今振り返ると、長いなと感じます。能て有名な世阿弥の言葉に「初心忘るべからず」とあります。若い頃の未熟な芸を忘れてしまつと上達した芸も自覚できず元の未熟なものに戻つてしまつので、前者を忘れるなという意味です。その他、「時々」の初心、「最後の初心」と続きますが、まずはこの「初心」を忘れずに自信を持って尾瀬の自然保護の取り組みに勤しみ、日々精進したいと思えます。  
(川上 藍)

## 今年も、春が来た

この時期に尾瀬沼ビクターセンターで勤めて、今年で4年目となりました。山で働くようになってからは毎年春になるのが待ち遠しくて、雪の中でじつと雪解けを待つ植物のような気持ちになりました。私は四季の中では春が一番好きです。冬の残り香を感じさせる冷たい空気、その中で樹々は芽吹き、新緑が眩しく、若い鳥たちがまだまだ未熟な声を響かせる、そんな尾瀬の春に心が躍ります。尾瀬で感じる様々な自然の変化、そして感動を訪れる方々に伝えていけたらと思えます。今年もどうぞよろしくお願いたします。  
(大澤 未奈)



ゆつくり花を眺め、寝転んで雲の動きを

ダケカンバの新緑、ニッコウキスゲの山吹色、エゾリンドウの紫、ナナカマドの赤、色が季節の変化を教えてくれる場所。最低1時間ほどは歩かないとたどり着けない尾瀬。不便ですが、自然の豊

かさを感じるためには欠かせないことのように思います。朝霧の動きをたどり、夕焼けの色の変化を眺め、イワツバメが子育てに励むのを見守るゆつたりした時間が最高だよと感じていただけたらいい。そして、自然との出会いで心を豊かにできるように、そのお手伝いのために微力を尽くしたいと思えます。新型コロナウイルスの流行で遠出が難しい今ですが、心置きなく尾瀬を訪れることができるとの日のために、力を尽くしたいと思えます。  
(加藤 樹)



## 平穏な尾瀬が取り戻せるように...

管理員2年目を務めさせていたたく齋藤です。昨年は緊急事態宣言の為5月に上山出来ず、尾瀬沼VC開所は7月、ミニツアーやイベントなどはさまざまな制限下の開催となり、管理員として学ぶべきことも十分にできませんでしたが、今シーズンにはフルでVC業務を積み重ね深めることが出来ればと思っております。



幸い今年にはほぼ例年通りの開所となりました。世界中、一刻でも早く安心して暮らせる日常を取り戻し、併せて再び多くの皆さんが気軽に尾瀬を訪れることが出来るようになることを切に願ひ、そして、皆さんが尾瀬を訪れた際には新たに開所する新尾瀬沼ビクターセンターでお迎えできるように準備含めて取り組みたいと思えます。今シーズンもよろしくお願ひいたします。

## 尾瀬通い80回

明日から休み。なんとかが仕事を片付けて家路につく。ザックに荷物をつめ、はやる心をおさえて仮眠をとり深夜、車を飛ばして大清水に向かう。ラジオからNHKの深夜放送が流れている。ヘッドライトをつけ大清水登山口から黙々と歩き三平峠で一息つく。尾瀬沼に着く頃には夜がすっかり明け、毎回違った顔を見せてくれる。数えてみたら尾瀬通いは80回になっていた。昨年、定年退職を迎え人生最後の仕事「尾瀬で働く」をかなえさせていたいただきました。新人60歳、よろしくお願ひいたします。  
(玉田 英司)



## 一期一会

2021年6月から尾瀬沼ビクターセンターが仕事場となりました。不安もありますがこれから学ぶことの方が多くその機会を頂いたことを感謝して大変楽しみにしています。尾瀬で出会える人々や植物、動物すべてに「一期一会」の心でお会いできればと思っておりますので、どうぞお気軽にお声掛けください。  
(杉原 順子)



# 令和3年シーズン ～コロナに負けない②～

2021年、昨年に引き続き、難しい状況でのシーズン幕開けとなりました。  
シーズン幕開けから発行日現在の状況を記録しておきたいと思います。

## ☑ 「尾瀬入山にあたって」の 掲載・発信を行いました。

「入山自粛」は行われず、コロナ対策を徹底しながらの尾瀬利用が推奨されています。

これまで尾瀬では、平日利用や時期、入山口をずらす「利用分散」を推奨して来ましたが、こうした状況においては、「利用分散」は接触回避・密回避にも効果があります。

## ☑ 概ねコロナ以前と同様の形で、 シーズンの幕開けとなりました。

昨年は、新型コロナウイルス感染症に直面した初めてのシーズンということもあり、山小屋等の施設の多くが休止していましたが、2021年シーズンは、概ね通常どおり開始されました。

## ☑ 群馬県の「まん延防止等重点措置」適用に伴い、 「尾瀬山の鼻ビジターセンター」が一時閉館となりました。

新型コロナウイルス感染症の感染状況等は、日々変化し、尾瀬周辺の自治体でも感染拡大が見られました。

群馬県では、「まん延防止等重点措置」が適用され、5月16日(日)～6月13日(日)まで、尾瀬山の鼻ビジターセンターが一時閉館となりました。この間は、展示室・レクチャールームは閉鎖し、屋外に面した窓口で必要な情報提供を行いました。

## 感染拡大防止のためのお願い

### ① 体調に不安がある時は、 入山しないでください

当日検温を実施するとともに発熱や咳等の症状がある方は入山しないでください。コロナ対策に配慮した遭難救助には時間と人手がかかります。



### ② 必要に応じてマスク等を 着用しましょう。

施設や乗合バス・タクシー内、人とのすれ違い時はマスク等を着用し、咳エチケットにご配慮ください。熱中症にも注意しましょう。



### ③ 身体的距離を確保しましょう。

他の方との間隔は2m以上、余裕のある距離を保ってください。尾瀬の木道は1基(1本)約4mが目安となります。



### ④ 余裕を持った計画を立てましょう。

コロナ対策に配慮した登山は時間がかかります。情報収集し、無理のない行程を計画しましょう。



### ⑤ 空いている時期・場所を訪れましょう。

密を避けるため、空いている時期・場所を訪れましょう。また、平日に利用することも検討しましょう。

### ⑥ 各施設の感染対策に協力しましょう。

この他、各施設が独自の対策に取り組んでいますので、ご協力をお願いします。





# 尾瀬ボランティア情報

このコーナーでは、尾瀬ボランティアの活動を紹介します。

## 研究見本園のシカ柵が設置されました



▲研究見本園シカ柵

尾瀬ヶ原の雪はすっかり解けたものの、鳩待峠からの林内にはまだまだ雪が残る5月上旬、研究見本園の大規模植生保護柵の設置作業が行われました。

研究見本園ではアカシボが見られ、地表が出ている所では小さなミズバショウが顔を出していました。

研究見本園のシカ柵はシーズン終了間際まで設置し、冬を迎える前にネットを撤去します。撤去作業に当たっては、ボランティアの皆様にご協力をお願いしたいと思っております。

## ごみ持ち帰り運動 ～横断幕を設置しました～

例年は6月第一土曜日に鳩待峠・大清水・沼山峠においてごみ持ち帰り運動キャンペーンを行っていますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年に引き続き、キャンペーンの実施は見送りしました。

しかし、ごみ持ち帰り運動は年間を通じて実施しており、事務局では6月上旬に鳩待峠・大清水に横断幕を設置しました。

登山道を歩いていると、意図せずと落としてしまったと思われるごみが見受けられます。また、最近では、新型コロナウイルス対策として着用しているマスクのごみも目立ちます。

美しい尾瀬を後世に引き継いでいくためにも、引き続き、ごみの持ち帰りを心がけていきましょう。



▲大清水の横断幕

## 外来種除去作業（小沢平登山口）を行います

平成29年度から、鳩待峠～津奈木の間でハルザキヤマガラシ、スノーパーク尾瀬戸倉～富士見下の間及び小沢平登山口にてオオハンゴンソウの除去を行ってきました。ボランティアの皆さんのご協力もあって、群馬県側の2カ所については対象がかなり少なくなったため、ボランティア活動メニューとしての除去作業は一旦休止し、経過観察することとしました。

一方で、小沢平登山口ではまだまだ根気強く除去を行っていかねばならない状況であり、これまでより回数を増やして実施する予定です。

**実施日** ①7月31日(土) ②8月21日(土) ③9月25日(土)

## 「ありがとう尾瀬清掃活動」を実施します

折々に美しい表情をみせてくれる尾瀬。「今シーズンもありがとう、来シーズンもよろしく」という気持ちを込めて、清掃活動を実施します。

**実施日 及び実施コース** ①10月9日(土) 尾瀬ヶ原コース・尾瀬沼コース ②10月17日(日) 尾瀬ヶ原コース

各活動の詳細は、ホームページで掲載するほか、申込者あて別途お知らせします。  
なお、新型コロナウイルスの感染状況等により中止することがあります。



# 寄付のお願い

— 尾瀬保護財団では、  
広く寄付をお願いしております —

当財団は、尾瀬国立公園において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を行い、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与する活動を続けております。

## ■ 所得税、法人税、個人県民税、個人市町村民税について

尾瀬保護財団へ寄付をすると優遇措置が受けられます。詳しくは、当財団ホームページをご確認ください。  
※所得税、法人税の詳細については最寄りの税務署に、県民税、市町村民税については、お住まいの都道府県、市町村にお問い合わせください。

## ■ 特別協賛寄付・協賛寄付について

企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度を設けています。

## ■ 寄付の方法

当財団へご寄付いただく場合は、財団事務局へご来訪いただくか、ご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。振込手数料は寄付者のご負担となりますのでご了承ください。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095	新潟県	第四北越銀行県庁支店	普通	1182791
	福島銀行本店営業部	普通	0590088		第四北越銀行新潟県庁支店	普通	0199366
	大東銀行福島支店	普通	1287138		大光銀行新潟支店	普通	0837334
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428	詳細は財団事務局(☎027-220-4431)にお問い合わせください。			
	東和銀行本店営業部	普通	0975531				

## 群馬トヨペット株式会社様からご寄付をいただきました。

群馬トヨペット株式会社様は、平成29年度より尾瀬保護財団への寄付を行っている他、尾瀬でのボランティア活動にも積極的に取り組まれ、シカの食害を防ぐための防鹿柵の設置・撤去に例年ご参加いただいております。

昨年度からは寄付活動を、クルマ1台の販売につき30円を積み立て、年間の積立額を尾瀬保護財団にご寄付いただく形としていただいております。今年度は27万円余りをいただきました。

群馬トヨペット様及びお車をご購入されたお客様からのあたたかいご支援を、しっかり尾瀬の自然保護につなげてまいります。



群馬トヨペットは  
クルマの販売を通じて尾瀬の  
自然保護活動を応援しています。

群馬トヨペットでは  
皆様にお買い上げいただいたお車1台につき30円を  
尾瀬保護財団に寄付させていただいております。

**群馬トヨペット**

### 特別協賛寄付者のご紹介 ※6月21日現在、五十音順、敬称略

**あいおいニッセイ同和損保**  
MS&AD INSURANCE GROUP  
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社  
通算寄付額 3,396,790円

顧客と時代のニーズを追い求めて…  
**糸井ホールディングス(株)**  
糸井ホールディングス株式会社  
通算寄付額 6,000,000円

心の産業グループ  
**エコ計画**  
環境・食・貢献をテーマに!  
株式会社エコ計画  
通算寄付額 5,000,000円

**三条駒草山の会**  
通算寄付額 1,000,000円

**meiji**  
株式会社明治 通算寄付額 3,100,000円





投資の力で未来をひらく

アセットマネジメントOne株式会社  
通算寄付額 37,971,534円

## 尾瀬紀行

尾瀬紀行(信託ファンド)で収受した信託報酬の一部をご寄付いただいております。平成19年より今回が14回目のご寄付となります。

通算寄付額 75,943,067円



株式会社群馬銀行 通算寄付額 35,889,263円



株式会社第四北越銀行 通算寄付額 6,956,427円



Daishi Hokuetsu Securities  
第四北越証券株式会社  
通算寄付額 1,891,132円



すべてを地域のために  
**東邦銀行**

株式会社東邦銀行 通算寄付額 13,449,860円

### 協賛寄付者のご紹介

※6月21日現在、五十音順、敬称略

「国産」を堂々、歴史と未来をひらく



同業いすゞ自動車株式会社  
通算寄付額 300,000円

仲間が広がる、旅が深まる



クラブツーリズム株式会社  
通算寄付額 1,000,000円

一般財団法人群馬県警察厚生会

通算寄付額 1,100,000円

群馬県ビルメンテナンス協同組合

通算寄付額 2,000,000円



**群馬トヨペット**

群馬トヨペット株式会社 通算寄付額 1,429,290円

**GN 群馬日産自動車株式会社**

群馬日産自動車株式会社 通算寄付額 900,000円

KDDI株式会社

通算寄付額 336,700円

**株式会社ジーシーシー**

株式会社ジーシーシー 通算寄付額 300,000円



スマーク伊勢崎  
通算寄付額 800,000円

**利根郡信用金庫**

利根郡信用金庫 通算寄付額 3,745,390円

このまちの笑顔をふやそう。



株式会社とりせん  
通算寄付額 2,678,562円

**NICHINEN**

株式会社ニチネン 通算寄付額 1,400,000円



**ひかり接骨院**

通算寄付額 631,000円

### その他の寄付者のご紹介

※令和3年2月1日～令和3年5月31日までの寄付者、五十音順、敬称略

板橋 勇人、尾崎 喜一、小花 光雄、群馬県電力関連産業労働組合総連合、堀木 紀美子、前澤 敏昭



## 表紙の風景

4、5年周期で花盛りを迎えるというコバイケイソウ。今年はずっとその当たり年のようで、湿原のあちこちに群生して咲いているのが見られます。

気持ちよく晴れた日の早朝、明るさを取り戻し始めた湿原にコバイケイソウの白い花が浮かび出るように見え、尾瀬沼から立ち上がる柔らかな霧に包まれた燧ヶ岳と対照的に見えました。淡い色をした生まれたての青空、眠りから覚めたばかりの大江湿原の緑、すべての色のハーモニーが夢のような世界へと連れて行ってくれます。



大江湿原の静かな朝 撮影日：令和3年6月28日



## 第25回 NHK「わたしの尾瀬」フォトコンテスト 作品募集のお知らせ

四季折々、様々な表情を見せてくれる尾瀬。

このコンテストは、魅力に満ちた尾瀬を広く紹介するとともに、貴重な尾瀬の自然を見直し、自然保護への関心を高める目的で企画したものです。

昨年度は実施を見合わせましたが、今年度は10月29日（金）までの期間で作品の応募を受け付けておりますので、ふるって御応募ください。

なお、当コンテストは、第25回の節目となる今回をもって終了させていただきます。25年の長きにわたり皆様に愛されてきたコンテストの最後を飾るにふさわしい、魅力あふれる作品をお待ちしております。



第24回風景の部銀賞「鮮やかに」外石高雄氏

《主催》NHK「わたしの尾瀬」実行委員会（尾瀬保護財団・NHK前橋放送局・NHK福島放送局・NHK新潟放送局）

※応募に当たっては、作品募集チラシまたはホームページにて詳細をご確認ください。

URL <https://www.nhk.or.jp/maebashi/oze/>



## 尾瀬公式インスタグラム

本アカウントでは、尾瀬国立公園と周辺地域の多様な魅力を不定期でお届けしております。

アカウント名：Oze Official Instagram

ユーザー名：@discoveroze

URL：<https://instagram.com/discoveroze?igshid=xkswzmb3vmrn>



## 友の会 コーナー

「友の会」は、豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援して下さる方々の集まりです。

※加入・更新時期は、年4回（5月・8月・11月・2月）です

### 《年会費》

個人	個人会員	1口 2,000円
	家族会員 (個人会員と同居の家族)	1口 1,500円
	ユース会員 (加入又は更新時に満22歳以下)	1口 1,500円
	賛助会員 (団体・企業等)	1口 10,000円
	特別会員 (企業等)	3年に渡る30万円以上の寄付または1回100万円以上の寄付

※11月1日からの加入・更新をご希望の方は9月30日までに会費の納入をお願いします。

### 《特典について》

友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただいております。

- 友の会会員バッジ進呈（初回加入時のみ）、各種資料送付
- 財団機関誌配布：郵送にてお配りします
- 宿泊割引：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引（休日、祝祭日前等の除外日があります。）
- 尾瀬周辺施設利用料金割引：入浴料金割引  
対象施設等の詳細は財団ホームページでご確認ください。

<https://www.oze-fnd.or.jp>

## 編集後記

私が尾瀬を居心地良く感じるの、故郷を感じるからなのだと改めて気付く出来事がありました。先日母から届いたラインには、八甲田の毛無岳に行った様子が見頃を迎えたコバイケイソウの写真。「あー、八甲田もコバイケイソウが当たり年か。」と思いながら、母の先導で初めて家族で尾瀬に来たときのことを思い出しました。コロナでなかなか帰省が叶わずにいますが、同じ山の空気を感じている気持ちになりました。（佐々木）



OZE Mobile 緊急情報・お知らせ・ライブ配信 など

スマートフォンサイト情報配信中



@oze\_info



本誌は、再生紙と環境にやさしい再生植物油インキを使用しています。